

## 2024年4月より、人工ひざ関節置換術に、先進医療の 「ナビゲーションシステム」を導入します！

人工ひざ関節置換術の手術時に使う「ナビゲーションシステム」

Stryker NAV3i を導入致しました

### 「人工ひざ関節置換術とは」

ひざの変形がかなり進行した方に行われる、手術で人工ひざ関節は1950年代に開発され、整形外科の歴史のなかでも最も革命的な治療法とされ、ひざ痛に悩まされる多くの患者さんを救ったと言われています。その数は年々増え、日本でのコロナ前のデータでは、年間9万件以上行われる手術になりました。コロナ中の2021年度でも約7.5万人が手術を受けています。人工ひざ関節置換術は英語で Total Knee Arthroplasty と言い、頭文字をとって、TKA という略語を我々医療スタッフは通常使っています。

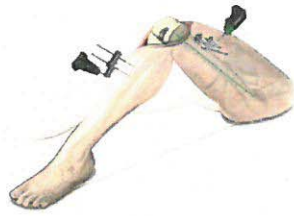
TKAの目的は、変形性ひざ関節症などで破壊された関節を切除して人工関節に置き換え、ひざの痛みを和らげたり、変形の矯正やひざの曲げ伸ばしの改善など機能の再建を図ることです。

## 「ナビゲーションシステムを使うメリット」

現在、ほとんどの車には「ナビゲーションシステム」が搭載されていて、どこか知らない目的地に出かける時には、「ナビゲーションシステム」に従って運転すると思います。昔ながらの地図本を見て目的地に向かう人は少ないかと思います。

医療にもコンピューターの導入が盛んになっています。人工関節手術の時に使う「ナビゲーションシステム」は、先進医療のコンピューター支援手術システムの一つです。このシステムでは、赤外線を使用して、治療する部位と手術器具の位置関係を正確に計測し、リアルタイムにコンピューター画面上に表示することで、医師の手術をサポートするシステムです。これにより、精度の高い手術が可能になります。





人工ひざ関節が正確に挿入されない場合、痛みや早期のゆるみなどを引き起こすことが報告されており、より正確な手術を行うことが治療成績向上のため重要です。「ナビゲーションシステム」の導入により、より精度の高い手術を行えることが証明されています。

特に変形の強い患者さんには有用とされています。2021年の日本人工関節学会のデータでは、日本全国で「ナビゲーションシステム」を人工ひざ関節置換術に導入している病院は27.59%のみで、個人経営のクリニックでの導入は、非常に少なく、光洋いきいきクリニックに導入されることは画期的なことと考えます！

より正確な人工ひざ関節置換術を行い、皆様のお役に立てるよう  
に精進して参ります。



(図提供：日本ストライカー社)